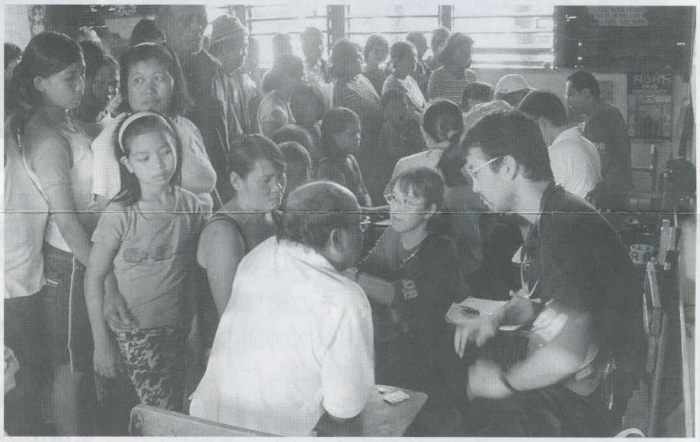
AMDA Journal ダイジェスト 号外

発　行：2006年4月　No.25　定価：100円
発行元：〒701-1202 岡山市楢津310-1
特定非営利活動法人 AMDA（アムダ）
TEL 086-284-7730 FAX 086-284-8959
E-mail：member@amda.or.jp
編　集：AMDA Journal 編集室
ホームページ：http://www.amda.or.jp

# フィリピン・レイテ島地滑り緊急救援活動
## －AMDAの医療救援活動－



2006年2月17日（金）、フィリピン中部レイテ島で、それまでの豪雨による大規模な地滑りが発生しました。フィリピン政府当局者らの話として、小学校や住宅等が広範囲に埋もれた被災地ギンサオゴン地区では死者、行方不明者は1,100人、避難者は3,000人にのぼると報じました。

AMDAは18日より、日本とインドネシアからの医療チームで多国籍医師団を編成し、地元の南レイテ医師会や金光教平和活動センター：KPACの協力を得て、多くの被災者が収容されているセントバーナード町に設置された避難所で救援活動を実施しました。これに先立ち、セントバーナード町が救護活動の拠点としている市民ホールを訪問し、当局と救援活動についての協議を行い、持参した救援物資より、需要の高かった医薬品、医療消耗品、生活支援物資等を提供しました。

### 医療支援活動をした避難所について

避難所は5箇所に急遽設置され、2月28日の時点で合計3272人（920世帯）が避難していました。

AMDA医療チームが活動した避難所は2箇所で、クリストレイ高校避難所とカトモン小学校避難所です。これらの避難所を選定した大きな理由として、地滑り災害が起こった地区の住民を収容している避難所で、直接および間接的に被害を受けている人が多いこと。災害当日児童約250人が通っており、地滑り後完全に埋もれてしまったギンサオゴン小学校もその地区にあたる。その他、その避難所には常駐している医者が必ずしもいないことや地元政府の緊急災害医療マネジメントチームより要請があったことなどです。

### 診療結果

クリストレイ高校避難所とカトモン小学校避難所の2箇所で（避難人数約1,100人）日本人医師1人およびインドネシア人医師2人により診療を行い、その結果7日間で計315人（男性151人、女性165人）の患者を診療しました。患者の最年長は90歳、最年少は3週間の乳幼児。避難所では、地滑り災害によって直接外傷を受けた人は少なかったものの、病状別に見ると呼吸器系疾患が77人と一番多く、次に足や背中、腰に痛みを伴うなどの筋・骨格疾患が43人、耳や喉、目などの苦痛を訴える人が30人、さらにストレスからくる精神科疾患が26人でした。家族を失った悲しみや、必ずしも環境が整わない避難所生活を余儀なくされる状況の中、精神的なダメージを受けている人が多く見受けられました。

### レイテ島緊急医療支援の特色

災害を逃れ生き残った人は比較的怪我も少なく、何とかやっている人達でした。しかしながら、多くの人は、自分以外の家族が全滅あるいは家族の誰かが災害で行方不明または死亡しているケースが多く、今後そのような残された家族の心理ケアが必要になってくるでしょう。

通常、フィリピンでは外国人医師による医療行為は困難でした。しかし、今回の緊急事態にあたりAMDAフィリピン支部を通して、現地受け入れ団体の南レイテ島医師会の支援を受け医療支援活動を実施することができました。加えて、地元の緊急災害医療マネジメントチームとの日々の連絡・調整を行ったことも、AMDAの活動がスムーズに行われ、地元で受け入れられた理由の一つでした。

診療活動はテントを張って1つの場所で医療行為をするという形をとらずに、避難所の部屋をまわっていく移動診療活動を行い、避難生活を送っている方々に非常に歓迎されました。（P2へつづく）

# パキスタン北部地震緊急救援

## ー「アフリカへ毛布をおくる運動」からの毛布を配布ー

AMDAはパキスタン北部地震被災者への緊急救援活動としてのブラールコートでの診療活動を終了し、医薬品・消耗品と患者データをパキスタンの現地団体に引き継ぎ、その後は後方支援を行なうことで、AMDA多国籍医師団の活動を適切な時期に終えることが出来ました。そして今、外国団体として出来ること、それは医療ニーズにもまして高まる、シェルター・テントや特に毛布の支援でした。

地震による直接の被害を免れても、その後、特に山間部では崩壊した家屋での寝食に人々は恐怖を覚え、屋外で生活していました。そうした状況の中、AMDAも構成団体としてその活動に参加している「アフリカへ毛布をおくる運動」から、備蓄毛布の寄贈をいただくことができました。AMDAでは土地の人々の信頼を得、また、診療活動の傍ら患者さんから伝えられる生活状況、近隣家庭の訪問で目の当たりにしたなか、やはり、毛布は欠かせないと実感していましたので、毛布配布ができることは、とても有難いことでした。

無事、通関手続きが終わったのは1月下旬でした。運送会社、現地住民の組織した毛布配布運営委員会、現地協力団体との連絡調整の結果、毛布の配布が2月5日の日曜日に決定しました。カラチからイスラマバードまでコンテナが無事搬送され、倉庫にて保管。そして前日に、コンテナからトラックへ詰め替え、現地の倉庫へ搬送。AMDAクエッタ事務所より3名が、毛布と共に移動。現地入りしました。今回配布にあたり、優先配布世帯の選定、配布リストの作成を担当してくれたのは二つの団体でした。

ブラールコート住民による毛布配布委員会：診療所を設置した学校を拠点にNWFP州、AJK州のブラールコートと周辺の村への配布。配偶者を亡くした女性、稼ぎ頭を失うなどした世帯を優先的に配布。両州の別なく双方の世帯を分け隔てなく配布対象とした。

ＵＮＡＰ(United Nations Association in Pakistan)：国連の活動をサポートするために編成された、地元ボランティア団体。NWFPのガリハビブラを拠点とし、周辺の村々、特に山の上の集落への配布に貢献。夫を亡くした女性の世帯、障害児がいる世帯を優先的に対象とし、山の上の集落、これまで支援の届いていなかった集落への配布を手配。

このように、毛布の配布もAMDAが全て行ったわけではなく、現地の人々にご協力頂きました。外国団体だけでは行き届かない目も、土地の人だからこそ、どこにどういった世帯があり、ニーズがあるか適切に捕らえ、不正がないように配布を行う力となりました。AMDAの支援はこれでひとまず終了となりますが、彼らに、支援が継続的に届き、彼らの自助努力で住居の再建など、こころの傷が癒されていくことを願うと同時に、彼らであればきっと助け合い、乗り切っていくであろうことを切に祈っています。

### AMDA医療チームがレイテ島を去った後

AMDAチームが去った後も、引き続き現地のボランティアと連絡を取り、情報収集をしています。それによると3月16日現在、4箇所の避難所が引き続き運営しているそうです。クリストレイ高校避難所にも未だ行き場のない人達が大勢避難生活を送られています。避難所になっていた学校では3月6日に授業が再開し、授業は校外でテントを張って行われている状況だそうです。そんな中、雨はいまだ毎日降り続いています。避難所の生活用水検査で大腸菌が発見され、迅速な対応を余儀なくされているとの情報が入りました。今後は環境衛生問題をさらに注意していく必要があると思われます。

株式会社 道祖神
The Travelers Guardian Inc.
〒108-0014 東京都港区芝5-13-18 MTCビル9階
TEL：03-3455-6111 FAX：03-3455-2442
〒530-0001 大阪市北区梅田2-5-25 ハービスPLAZA3階
TEL：06-6343-7725 FAX：06-6343-6328
ホームページ： http://www.dososhin.com
メールアドレス： info@dososhin.com

AMDA
医療和平

スリラ

医療和平プロジ

20年に及ぶ内戦への停戦
2003年3月より、スリラン
ジェクトを開始しました。

巡回診療では銃弾の痕が残
を借りて、診察と住民の健康
作成し、巡回した際に多くの
きるように工夫しました。
ン検査可能な車に手直しし、
て活用しています。

特に巡回診療地をはじめ
の健康教育では基礎的な保健
法、栄養指導、さらには平和
な教育を行ってきました。

AMDAが発行する健康新聞
ル語、英語の3言語表記で、
に記載し、最後には平和への
を交えて掲載し、小学校を
AMDA健康新聞は小学校で
り、本来学校保健の存在しな
部、南部地域において、児童
きな効果を果たすこととなり
の子ども達は初めて交換会を
ことができました。

ー

布にあたり、優
の作成を担当し

布配布委員会：
NWFP州、AJK
への配布。配偶
うなどした世帯
双方の世帯を分

Association in
トするために編
体。NWFPのガ
村々、特に山の
亡くした女性の
的に対象とし、
届いていなかっ

IDAが全て行っ
ご協力頂きまし
ない目も、土地
った世帯があり、
不正がないよう
AMDAの支援は
が、彼らに、支
努力で住居の再
いくことを願う
助け合い、乗り
祈っています。

水検査で大腸菌
くされていると
衛生問題をさら
われます。

迎神
ardian Inc.
MTCビル9階
2442
ハービスPLAZA3階
6328
hin.com
m

# AMDA 医療和平

AMDAが提唱。紛争当事者の双方に中立人道の立場から、国際医療協力をも
に寄与する試み。過去例として、対立するアルバニア系・セルビア系住民双方
と北部同盟の間でのワクチン停戦（アフガニスタン）、スリランカ北部反政府組
支配地域と南部シンハラ政府地域、東部イスラム地域の3地域での巡回診療健康
業:現行）。これまでの3つの医療和平事業に続き、インドネシア・アチェは4つ

## スリランカ

### 医療和平プロジェクトの歩み

20年に及ぶ内戦への停戦合意を受け、AMDAは2003年3月より、スリランカにおいて医療和平プロジェクトを開始しました。

巡回診療では銃弾の痕が残る公民館や学校の建物を借りて、診察と住民の健康診断を実施。カルテを作成し、巡回した際に多くの人々を能率的に診療できるように工夫しました。また、冷蔵庫をレントゲン検査可能な車に手直しし、巡回レントゲン車として活用しています。

特に巡回診療地をはじめ地域の小学校を訪問しての健康教育では基礎的な保健衛生指導から病気予防法、栄養指導、さらには平和教育にまで及ぶ総括的な教育を行ってきました。

AMDAが発行する健康新聞にはシンハラ語、タミル語、英語の3言語表記で、保健衛生指導をテーマ別に記載し、最後には平和へのメッセージを絵や作文を交えて掲載し、小学校を中心に配布しました。AMDA健康新聞は小学校で健康教育の教科書ともなり、本来学校保健の存在しないスリランカの北部、東部、南部地域において、児童・生徒への健康教育に大きな効果を果たすこととなりました。さらに、3地域の子ども達は初めて交換会を行い、交流を深め合うことができました。

3地域でのこうした地道な健康教育を行っていくなかで、2004年12月のスマトラ沖地震・津波被害に遭いました。AMDAでは活動地でもある地元（北部・キリノッチ県、北東部・トリンコマリ県、南部・カルタラ県）の保健行政局から依頼を受け、感染症予防のための保健衛生教育を開始しました。いままでの健康教育が今回の被災地での感染症予防にも有効であり、即実施できる団体と判断されたからでした。さらにLTTE地域ではLTTE側の保健行政機関と政府側の保健行政機関双方の活動許可が必要でしたが、今までの実績による双方との信頼関係の上には活動の拡張には問題は発生しませんでした。

こうして被災者への緊急救援活動として、北部、北東部の全ての小学校と南部の全ての避難民キャンプにおいて感染症予防保健教育を実施しました。加えてソーシャルワーカーが被災した子ども達への心のケアに努めました。

AMDAのこうした健康教育は、地元保健機関との連携により、上述のような健康教育法を地域の保健スタッフに伝えるため、教育プログラム（MOH HealthVolunteerトレーニング）として開始されました。地域保健・公衆衛生の現状を改善するためにも、地域保健スタッフのレベル向上は不可欠なのです。月に一度の保健所でのミーティングの際に、AMDAで作成したマニュアル等を使いトレーニングを行っています。また、保健衛生啓蒙ポスターを配布し、各自の活動場所で活用してもらうよう依頼しています。

そして将来的にはAMDAが行っている健康教育を地元の保健ボランティアが代わって行えるようになるよう、伝えていって欲しいと願っています。

## インドネシア

### アチェ医療和平プロジェクト開始

約30年に及ぶ内戦被災地であり、且つ2004年12月26日の地震・津波の最大の被災地の一つとなった、南アチェ県では、その地理的条件また治安上の不安定さから、これまで全くと言ってよい程に、国際機関及びNGOの支援が入っていませんでした。2005年8月15日反政府組織・独立アチェ運動(GAM)と政府との間で再度和平協定が結ばれて以降、その合意の実施(GAMの武装解除と国軍の順次撤退)は進んでおり、アチェ州全体のセキュリティー・レベルが下げられたことで、これまで国際社会から支援に入りにくかった地域へのアクセスが可能となり始めた状況をいち早く受け、AMDAは津波被災後からの一年間のバンダアチェでの復興支援活動経験に基づき、今年1月から南アチェ県（Aceh Selatan District）内の6つの村で、活動を開始しました。

地元のコンタクト・パーソンとして、アチェで活動するインドネシアの環境ローカルNGOのサルブニ

ス氏が、AMI
とから、「(自
南アチェ県で
要請を受け、
ートを受ける
AMDAは非
ため、非イス
初は懸念され
ムの趣旨を理
てもらいたい
実施地区6
ら2003年にか
し、最終的に
所は紛争が激
GAMと政府側
現在は安定し
であったため
GAM兵士が
活動内容は
いるプログラ
子ども達のた
書館・保健衛
ダ・アチェで
の活動の代わ
して、イスラ
のダンス・セ
ムの具体案と
回する巡回診
約500名が受

A
平

AMDAが提唱。紛争当事者の双方に中立人道の立場から、国際医療協力をもって紛争の緩衝を図り、和平プロセスに寄与する試み。過去例として、対立するアルバニア系・セルビア系住民双方への医療支援(コソボ紛争)、タリバンと北部同盟の間でのワクチン停戦（アフガニスタン）、スリランカ北部反政府組織タミル・イーラム解放の虎：LTTE支配地域と南部シンハラ政府地域、東部イスラム地域の3地域での巡回診療健康教育の実施（スリランカ医療和平事業:現行）。これまでの3つの医療和平事業に続き、インドネシア・アチェは4つ目の事業として2006年1月より開始。

## ンカ

### ェクトの歩み

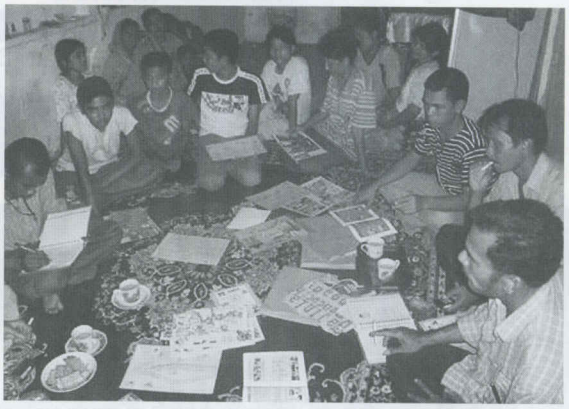
合意を受け、AMDAは
カにおいて医療和平プロ

戦る公民館や学校の建物
療診断を実施。カルテを
の人々を能率的に診療で
また、冷蔵庫をレントゲ
巡回レントゲン車とし

地域の小学校を訪問して
健衛生指導から病気予防
和教育にまで及ぶ総括的

間にはシンハラ語、タミ
保健衛生指導をテーマ別
のメッセージを絵や作文
中心に配布しました。
健康教育の教科書ともな
いスリランカの北部、東
・生徒への健康教育に大
りました。さらに、3地域
を行い、交流を深め合う

3地域でのこうした地道な健康教育を行っていくなかで、2004年12月のスマトラ沖地震・津波被害に遭いました。AMDAでは活動地でもある地元（北部・キリノッチ県、北東部・トリンコマリ県、南部・カルタラ県）の保健行政局から依頼を受け、感染症予防のための保健衛生教育を開始しました。いままでの健康教育が今回の被災地での感染症予防にも有効であり、即実施できる団体と判断されたからでした。さらにLTTE地域ではLTTE側の保健行政機関と政府側の保健行政機関双方の活動許可が必要でしたが、今までの実績による双方との信頼関係の上には活動の拡張には問題は発生しませんでした。



こうして被災者への緊急救援活動として、北部、北東部の全ての小学校と南部の全ての避難民キャンプにおいて感染症予防保健教育を実施しました。加えてソーシャルワーカーが被災した子ども達への心のケアに努めました。

AMDAのこうした健康教育は、地元保健機関との連携により、上述のような健康教育法を地域の保健スタッフに伝えるため、教育プログラム（MOH HealthVolunteerトレーニング）として開始されました。地域保健・公衆衛生の現状を改善するためにも、地域保健スタッフのレベル向上は不可欠なのです。月に一度の保健所でのミーティングの際に、AMDAで作成したマニュアル等を使いトレーニングを行っています。また、保健衛生啓蒙ポスターを配布し、各自の活動場所で活用してもらうよう依頼しています。

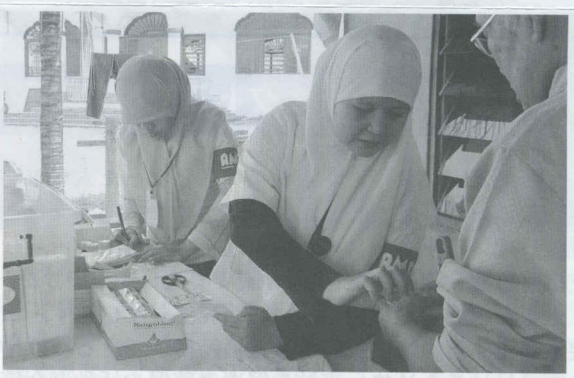
そして将来的にはAMDAが行っている健康教育を地元の保健ボランティアが代わって行えるようになるよう、伝えていって欲しいと願っています。

## インドネシア

### アチェ医療和平プロジェクト開始

約30年に及ぶ内戦被災地であり、且つ2004年12月26日の地震・津波の最大の被災地の一つとなった、南アチェ県では、その地理的条件また治安上の不安定さから、これまで全くと言ってよい程に、国際機関及びNGOの支援が入っていませんでした。2005年8月15日反政府組織・独立アチェ運動(GAM)と政府との間で再度和平協定が結ばれて以降、その合意の実施(GAMの武装解除と国軍の順次撤退)は進んでおり、アチェ州全体のセキュリティー・レベルが下げられたことで、これまで国際社会から支援に入りにくかった地域へのアクセスが可能となり始めた状況をいち早く受け、AMDAは津波被災後からの一年間のバンダアチェでの復興支援活動経験に基づき、今年1月から南アチェ県（Aceh Selatan District）内の6つの村で、活動を開始しました。

地元のコンタクト・パーソンとして、アチェで活動するインドネシアの環境ローカルNGOのサルブニ



ス氏が、AMDAのアチェでのプログラムを知ったことから、「(自身の出身地であり支援の届いていない)南アチェ県でも是非とも実施してもらいたい」との要請を受け、ネットワーキングの面で全面的はサポートを受けることが可能となりました。

AMDAは非イスラム圏に本部のあるNGOであるため、非イスラムの文化を入れるのではないかと、当初は懸念されましたが、対話を重ねる中で、プログラムの趣旨を理解してもらい、各村長から「是非実施してもらいたい」と要請を得るに至りました。

実施地区6カ所の特徴としては、3ヶ所が2000年から2003年にかけて住民が紛争のために移動を繰り返し、最終的には元の村に帰還している集落。もう3カ所は紛争が激しかった2000年から2003年の間に、GAMと政府側との武力衝突が多くあった地域ですが、現在は安定しています。住民の多数がGAMメンバーであったため、昨年の8月に締結された和平後に元GAM兵士が帰還している集落です。

活動内容は、現在バンダアチェ被災地で実施しているプログラムをベースに、紛争地域で育ってきた子ども達のための心のケアに取り込みます。『移動図書館・保健衛生教育・栄養教育』を軸とするが、バンダ・アチェで実施している津波に関する作文や絵画の活動の代わりに、『平和な心を学ぶための活動』として、イスラム教の歌やアチェの伝統民謡を使ってのダンス・セラピーや、詩などの創作活動をプログラムの具体案として入れています。加えて6つの村を巡回する巡回診療活動も2月から開始し、3月末までに約500名が受診しました。

## AMDA活動国と主な事業

◆アジア
カンボジア：AMDAカンボジアクリニック
保健ボランティア育成・巡回診療
ミャンマー：母子保健・エイズ予防・マイクロクレジット
コーカン特別地域基礎保健促進
子ども病院（栄養給食）
ネパール：ネパール子ども病院・ダマックAMDA病院
保健衛生改善・エイズ予防・保健人材育成
ブータン難民キャンプPHC
バングラデシュ：保健衛生改善・マイクロクレジット
ベトナム：北部山岳地帯保健衛生支援
スリランカ：医療和平
ワウニア地区保健サービス復興支援
パキスタン：アフガン難民支援
パキスタン医療システム支援
インドネシア：スマトラ沖地震・津波復興支援
ニアス島緊急復興支援

◆アフリカ
ケニア：エイズ予防・青少年育成
ジブチ：難民医療支援
ザンビア：コミュニティ健康促進
スーダン：ダルフール医療支援

◆中南米
ペルー：エイズ予防
ボリビア：救急救命人材育成支援
ホンジュラス：青少年育成／エイズ予防教育
トロヘス・コミュニティ開発支援

◆緊急救援活動
スマトラ沖地震・津波
（インドネシア・スリランカ・インド） 2004.12開始
インドネシア・ニアス島地震 2005.3開始
アメリカ南部ハリケーン「カトリーナ」 2005.9開始
パキスタン北部地震 2005.10開始
中米グアテマラ豪雨 2005.11開始
フィリピン レイテ島地滑り 2006. 2開始

## AMDAプロジェクトご支援のお願い

AMDAは2005年度も災害の被災者となった人々を支援する緊急救援活動を4回、また緊急救援活動から復興支援活動へと継続している事業を含め、開発途上国で貧困に苦しむ人々を支援する社会開発事業を15カ国で実施してきました。

近年、世界各地で頻繁に災害が発生しています。こうした突然発生する災害の被災者救援活動は、できるだけ早く現地に駆け付けるために、事前の派遣者確保や活動資金確保が必要です。派遣者は派遣者登録制度を設け、緊急時に現地へ出かけて行くことが可能な方々に登録をして頂いていますが、資金面の確保は依然として緊急救援開始の大きな課題となっています。どうぞ皆様、「AMDAの円滑な緊急救援活動実施」へのご支援をお願い致します。

AMDAへのご寄附には一般寄附と特定寄附（応援してくださるプロジェクト国や名前を明記してご寄付頂く）がありますが、緊急救援の場合にも今後起きうる災害等を想定した、「緊急救援」への特定寄附をお願い致します。

**郵便振込 口座番号 01250-2-40709 口座名 AMDA**

＊書き損じハガキ、未使用ハガキ・切手を集めています。
書き損じハガキは切手と交換し、通信費として使用しています。

## NGO相談員のお知らせ

**ーお気軽にお問い合せくださいー**

NGO相談員に何を相談したら良いのかと思われる方もいらっしゃるのではないでしょうか。

今年度の相談案件を見てみると、将来国際協力の分野での就職やボランティア活動への参加に関するものが最も多いです。また、既に国際協力NGOに所属されている方から、特定の国の情報、NGOの活動環境、運営上のノウハウなどについて相談を受けることもあります。

NGO相談員の強みは、こうした質問に対して、相談員自身あるいは所属する団体の経験に基づいた回答ができる点にあると考えます。国際協力への第一歩を踏み出す、あるいは、現在行われている活動を発展・改善する際のお役に立てればと思います。

NGO相談員 田中一弘 奥谷充代

**＊「NGO相談員制度」とは**

国際協力NGOの設立、NGO活動への参加、組織の運営・管理、開発途上国に関する情報、NGO相互の情報ニーズに対し、経験豊かな日本NGO団体が相談員となり、適切なアドバイスを行います。また、国際協力に対する理解促進のため、NGO相談員が地方自治体や教育機関などと連携して行う出張相談サービスも実施しています。

＊詳しくは、AMDAホームページをご覧ください。
http://www.amda.or.jp/about/counselor_on_ngo_affairs.htm

## AMDA会員募集

AMDAの会員となってAMDAの活動を支えて下さる方を募集しています。一般会員・学生会員・医師会員・法人会員となって下さった皆さまには、AMDAの活動へのさまざまなご提案を頂くと共に、AMDAより活動報告誌『AMDAジャーナル』を毎月送付します。また、賛助会員の皆さまには『AMDAダイジェスト』を送付します。詳細はAMDAホームページをご覧下さい。
http://www.amda.or.jp/（正会員については「AMDAとは」の定款第3章をご覧下さい。）
また入会手続にはAMDAの郵便払込用紙をご利用下さい。

## AMDA高校生会新メンバー募集

AMDAのプロジェクトを支援し、国際協力事情を学ぶことを目的としたAMDA高校生会は1995年以来、活動を続けてきました。

2005年度は、スリランカの医療和平プロジェクトを支援すると共に、各国のAMDAプロジェクトの話を聞いたり、高校生会主催の高校生のためのワークショップを開催しました。他団体等のイベントにも参加し、街頭募金やフリーマーケットも行いました。

新高校1、2年生のメンバーを募集しています！
活動は毎週金曜日の放課後、AMDA事務所にて行っています。
お気軽に事務所を尋ねて下さい。
〒701-1202 岡山市楢津310-1 電話086-284-7730（担当難波）
詳しくはAMDA高校生会のホームページをご覧下さい。
http://www.amda.or.jp/highschool/